

平成 21 年 1 月 30 日  
株式会社まちづくり三鷹

## Ruby 言語による図書館システム//塩尻モデル開発へ ~ 株式会社まちづくり三鷹 ~

【概要】 1 月 29 日、長野県塩尻市（小口利幸市長）は、三鷹市の第三セクターである株式会社まちづくり三鷹（内田聖二代表取締役）がプログラミング言語 Ruby を使って開発した図書館システムの導入を決定した。同市は、平成 22 年度までに建設する市民交流センター「えんぱーく」内の図書館開館にあわせて、システムを入れ替えることにした。このほど、当社の提供するオープンソースによる自治体業務システム開発事業が同市の「地域情報化ビジョン（2006 年）」に合致していることから、これを採用したものである。

当社は、図書館基幹業務システムを完全 Web 方式で開発するにあたり、オープンソースを活用して、大幅なコストダウンを実現した。また、塩尻市向けのカスタマイズや保守運営については、長野県内の地域 IT ベンダーと提携して行うことにする。

これまで、自治体業務システムの開発は、大手 IT ベンダーの寡占状態だったが、自治体の IT コスト削減と地域活性化を目的とした当社の IT ビジネスがそこに風穴をあけた。当社は、これを契機に、全国自治体の IT 経費半減化に向けて、地域おこしとともに、広く営業展開を図る。

当社には、新しい図書館サービスの展開を模索している自治体や厳しい財政状況から図書館システムの更新が困難な自治体、停滞する地域経済の活性化や若者の雇用確保を図ろうとする自治体から、数多くの問い合わせが寄せられている。

【内容】 Ruby は、松江市在住のまつもとゆきひろ氏が開発した、日本生まれのプログラミング言語で、従来の言語に比べて、簡易で開発効率が極めて高い。2004 年に公開されたフレームワーク「Ruby on Rails」の登場によって、いま世界的に注目されている。日本でも、楽天、ニフティなどで、Web アプリケーションソフトの開発に採用されている。

まちづくり三鷹は、2007 年度に Ruby 講師養成講座を開設し、そこで養成した数人の技術者によって、2008 年 8 月に図書館の基幹業務システムのパッケージソフトを開発した。これまで、Ruby は、大量の情報を高速で処理する業務システム

には不向きだとされてきた。当社はこれに挑戦し、約 70 万件の書誌情報もスムーズに検索できることを実証した。Ruby の開発効率のよさを生かして、開発期間を短縮し、コストの低減ができたため、従来のシステムの半額程度の価格を実現した。

このシステムは、価格が安いだけでなく、先進的な完全 Web 方式の採用により、複数の公共図書館や学校図書館などをインターネット上で結び、一箇所のサーバーで統合管理を行うことができるという特長をもっている。

これまで、自治体は、一度導入したシステムを改修する必要が生じた場合に、導入した IT ベンダーにほぼ言いなりの金額で依頼せざるをえなかった。この無駄な投資を回避すべく、システムのソースコードの開示を求めるオープンソース化の動きが自治体にも徐々に広がりつつある。

当社がソースコードを開示することで、これまで大都市圏の大手 IT 企業に流れていた自治体の IT 投資を地域経済圏で循環することができるようになる。当社では、システムの開発段階で地域 IT ベンダーの Ruby 技術者を養成し、その地域ベンダーとライセンス契約を締結した上で、ソースコードを開示する。このことで、地域 IT ベンダーが図書館の要望に即したシステムを開発するとともに、その保守や改修を行うので、きめ細かな図書館サービスを迅速かつ柔軟に提供することができる。また、地域 IT ベンダーの技術力を高め、技術者が意欲をもって仕事に取り組むことができるようになり、若者などの雇用を創出することにつなげていくことができる。

塩尻市は、かねてからオープンソースによる業務システムの開発を検討してきた。単に低コストであるだけでなく、図書館が行いたいサービスの要求に応えとともに、地域の活性化に結びつけるという当社のビジネスモデルに強い関心を寄せ、当社に開発業務を発注した。今後、当社は、塩尻モデルを全国の自治体向けに幅広く展開していく予定である。

問合せ先： 株式会社まちづくり三鷹 IT 事業本部  
柴田・宇山・佐藤・田島  
0422 40 9669

# 地域活性化の手法: ソースコードの開示

